

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)	【上位目標】 タパントン郡において、対象小学校における1～3年生のリテラシー（読解力）が向上することにより、識字率の向上ひいては退学率の減少にも寄与する。 事業対象校3年生のうち、文章を読んで意味を理解できる児童が1年次の5%から28ポイント上昇し33%となった。また、対象14校における退学率が事業開始時の8.8%（2019年度）から1%（2021年度）に減少した。 【プロジェクト目標】 1～3年生のリテラシー向上へ向けた教員の教授スキル向上と、学校生活に必要な衛生設備・教材の導入により、タパントン郡の対象小学校における学習環境が改善される。 本事業では、生徒のリテラシー向上の鍵となる教員の教授スキル向上及び定着、授業の質向上に向け、教員研修及びモニタリング・コーチングを複数回実施してきた。 設備面の改善については、1年次に続き図書・教材を供与し、学校に設置した読書コーナーを拡充し、トイレ・井戸の設置を進めた。 また、コミュニティでの読書グループを立ち上げ、本事業の研修で育成したコミュニティ住民の主導で子どもたちの読書活動を行った。保護者を対象に家庭での学習サポート方法についての研修を行い、子どもたちが家庭内で読書や学習ができるスペースの設置を支援した。 2年次には、こうした1年次からの活動が実際に事業成果として表れている。具体的には研修で習得したスキルを用いて授業を行っている教員は92%、事業対象の小学校に通う3年生で文章を読み意味が理解できる子どもが1年次から28%上昇し33%となった。また、対象14校における退学率が事業開始時の8.8%（2019年度）から1%（2021年度）に減少した。
	(今期事業達成目標) 1年次に築いた基盤をもとに生徒のリテラシー向上へ向け教員に教授スキルが浸透しコミュニティでの読書活動実施体制が整えられる。
(2) 事業内容	活動【1】：1～3年生のリテラシー向上へ向けた、教員の教授スキル強化 活動【1】1. リテラシー向上指導員（マスター・トレーナー）の育成 - リテラシー向上指導員リフレッシュ研修を計2回実施した（団体スタッフを含むマスター・トレーナー12名対象）。1回目（3日間）はリテラシー教授法指導メソッドの復習と、2021年に改訂されたラオスの小学3年生用カリキュラム及び教科書について確認した。同改訂に伴い、教員研修をはじめとする本事業活動に必要な調整等についても協議・確認した。2回目（4日間、団体スタッフ含む12名対象）では、教員研修実施のための復習とアイディアの共有、図書の管理方法及び読書活動実施に関する教員への指導法について復習を行った。1回目研修はサバナケット県における新型コロナウイルスの急激な拡大時期にあたり、県・郡をまたいだ移動が禁止となったため、講師とマスター・トレーナー2名はオンラインで参加した。 活動【1】2. 1～3年生担当教員のリテラシー教授スキルの強化 - 上記活動【1】1.で育成したリテラシー向上指導員が講師となり、教授法教員研修を計2回実施した（1回目教員34名参加、2回目32名参加）。1年次研修の内容（特にリテラシーを構成する5つのスキルとこれらを伸ばす指導法）の復習にくわえ、各校の課題や事例紹介を含め、参加者となる教員間で意見交換を行った。教案作成法についても学び、

	2021 年に改訂されたラオスの小学 3 年生カリキュラム及び教科書にもとづき、グループに分かれて教案を作成し発表した。申請時の計画では、計 42 名対象を予定していたが、各校とも複数学年を掛け持ちしている教員が多いため、対象人数が計画を下回った。 活動【1】3. 対象校での図書の整備・管理 ・ モニタリング訪問時や、対象校での活動実施時に合わせて各校の図書利用状況や整備・管理について確認した。 ・ 対象 14 校の教員及び対象 14 村の Village Education Development Committee (VEDC) 計 32 名を対象に、図書の活用や整備・管理に関する研修を実施した（2 グループに分かれ、クラスター村で実施）。参加者は児童の読書意欲を高める図書の活用方法や、図書の登録、貸出し、返却を含めた管理方法について学んだ。 ・ 各校へ図書および各種リテラシー教材、本棚、読書コーナー用資材（椅子・床マット等）を供与し、読書コーナーを拡充した。事業開始前には教科書しか読むものがなかったが、今では毎日たくさんの本を読んで楽しんでいるという児童の喜びの声が聞かれた。 活動【1】4. 生徒のリテラシー調査実施および教授法改善への活用 ・ 調査員（DESB, PESS 職員¹と WV スタッフが担う。計 12 名）を対象に調査手法のトレーニングを実施した（1 回目 12 名、2 回目 20 名対象）。一貫性のある有効なデータを収集できるよう、タブレット端末とアプリケーションの使い方詳細とフォームの入力方法詳細を確認した。 ・ 対象 14 校および非介入校 6 校でリテラシー調査を計 2 回実施した。1 回目 3 年生生徒計 165 名（うち女子 79 名、男子 86 名）、2 回目は 107 名（うち女子 58 名、男子 49 名）を対象に調査を行った（調査は、当日学校に来ている生徒と調査員が 1 対 1 で実施）。2 回目リテラシー調査は 2022 年 3 月中旬に予定し実施していたが、タパントン郡における急激な新型コロナウイルス感染拡大とともに、当事業スタッフ及び調査に参加予定だった政府職員の感染が確認され、調査の継続が困難となった。このため、所定期間の隔離と安全対策を取ったうえで、参加スタッフを減らし調査を完了した。 ・ リテラシー調査により、文章を読んで意味を理解できた対象校 3 年生児童が 1 年次の 5% から 33% に上昇したことが確認された。一方で、非介入校では 20%（1 回目では 6%）と、本事業の成果が確認できる結果となった。 ・ 上記リテラシー調査の分析結果にもとづき、2 日間の関係機関とのレビュー・ワークショップを実施した。対象校校長・対象村村長計 25 名（うち女性 6 名）、PESS 職員、DESB 職員、事業スタッフが参加し、リテラシー調査分析結果概要及び詳細を共有し、各校の結果の背景にある要因や課題の分析・協議を行った。また、各校が状況改善に向けた行動計画を作成し、全体に発表した。具体的には、授業の準備に関するものや、図書の貸し出しを促す計画等が挙げられ、いつまでに何をするかについても行動計画に明記した。3 年次には事業モニタリングの機会等と同行動計画の進捗を確認し、それぞれの学校にあったフォローアップを行う予定である。なお、本活動に合わせて専門家招聘を計画していたが、新型コロナウイルスによるラオス出入国制限により取りやめとした（事業変更承認申請第 2 号）。
--	---

¹ DESB は District Education and Sports Bureau（郡教育・スポーツ局）の略（以下同）。PESS は Provincial Education and Sports Services（県教育・スポーツ局）の略（以下同）。

活動【2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポート強化

活動【2】1. コミュニティでのリテラシー向上活動（読書グループ）推進へ向けた住民ボランティアの育成

- コミュニティでの読書グループ活動開始にあたり、図書や必要な資材（本箱、啓発ポスター、紙・文具など）を各コミュニティに設置した14の読書グループに供与した。
- リテラシー向上活動の指導員研修を実施した（5日間）。教育スポーツ省、PESS、DESB職員、団体スタッフからなる指導員計11名が参加し、コミュニティでの読書活動詳細や読書グループ・ファシリテーターの育成・コーチング法を学んだ。
- 対象各村において、VEDC、教員、保護者へのオリエンテーションを実施した（2月、7月）。本活動は1年次終了～2年次開始前の狭間となった2月に自己資金で実施した（活動実施計画スケジュールの都合上、事業開始後に遅らせることができなかったため）。計261名が参加し、コミュニティでの読書活動の概要共有と、読書グループ・ファシリテーター選定を行った。その後、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウン措置で生じた活動停止期間中の活動の遅れ等をフォローアップするため、（本事業資金で）7月に再度実施し、活動の遅れを取り戻す具体的な活動方法や今後の計画修正について協議した。
- 「読書グループ・ファシリテーター」育成研修を実施した（2グループに分けて各グループ年2回実施）。計52名が参加し、コミュニティでの読書活動の概論及び実践方法について学んだ。2回目には事例や課題の共有と意見交換も行った。研修時に行ったテストでは、ほぼすべての参加者が研修前に比べて正答率が上昇し、研修の有効性が確認できた。

活動【2】2. コミュニティでの子ども向け読書グループ活動

- 本活動は当初2021年5月からの開始を目指していたが、2021年4月下旬に発生した新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンにより実施が不可となった。事業地におけるロックダウンが緩和された6月にはDESB職員と団体職員が対象村で読書グループ活動開始サポートを行い、歌、ゲーム、読み聞かせを通じた読書促進活動を実施した。しかし6月以降は農繁期にあたるため、対象村の住民及び児童の多くが自宅から離れた農地に長期滞在し農作業に従事していることが確認された。農地での活動実施も検討したが、農地が点在していること、農地では電波が乏しく参加児童の保護者との連絡が取れないこと、農地には電気が通っていないため農作業後の日没後は実施できないこと等から断念した。このため、活動の本格的な開始は新学期開始後の9月からとなり、活動期間が計画より短くなった。
- 読書グループ活動は14グループで計187セッション、延べ3,947名（内女子2,135名）の子どもたちが参加した。読書グループ活動のセッションは、読み聞かせ、読んだ話についての質問と応答、工作を通じた文字の学習、歌や踊りを通じた学習、作成した工作を自宅に持ち帰るといった要素を毎回含み、登録数を超える子どもたちが熱心に参加した。
- 自己資金で実施している他事業での読書啓発イベントに事業スタッフ2名・DESB職員2名が参加し、視察を行った。活動実施方法や、実施に際しての留意点・教訓を学んだ。
- 上記視察での学びを活かし、対象14校で事業スタッフと読書グループ・ファシリテーターが協働で読書啓発イベント（リーディング・フェスティバル）を実施した（各校1回）。イベントには児童818名（内女子426名）、コミュニティ住民314名（内女性127名）が参加した。ゲームやスポーツを取り入れて、リテラシーを楽しみながら学ぶ活動を行

い、日頃の学習成果を保護者らの前で披露する場ともなった。また、同イベントの重要な要素として、子どもの保護に関する啓発メッセージを共有した。具体的には、子どもの権利についての説明、虐待にあたる行動の説明、子どもの保護の懸念が生じた際の連絡先の共有をおこなった。これらの情報がいつでも確認できるよう、メッセージの含まれるノートを児童に配布し、ポスターを対象校、読書グループ実施場所、村役場オフィス、郡政府各局のオフィスに配布し掲示した。さらに、この機会を利用して新型コロナウイルス感染予防及びワクチン接種の啓発メッセージも共有した。同活動には現地メディア関係者を招へいし、SNSメディア、SNS テレビ、新聞（ビエンチャン・タイムズ）の一面で、ラオスで他に類のない活動として取り上げられた（別添 10 を参照）。同活動で用いたスポーツ用品は対象校に供与し、子どもが学校でスポーツを楽しめる環境の整備につながった。

活動【2】3. 子どものリテラシー向上に関する保護者の知識とスキル向上

- PESS/DESB 職員および WV スタッフがファシリテーターとなって、各対象村で保護者対象の読書啓発ワークショップを実施した（3 回に分け、7 セッション）。14 村で計 797 名の保護者（内女性 394 名）が参加し、家庭での子どものリテラシー習得サポート法について学んだ。具体的には①子どものリテラシー習得について ②家庭での日常的な行動を通して子どもにリテラシーを教える方法 ③子どもとの読書活動方法 ④読書後の理解度の確認方法 ⑤リテラシー習得を促進する家庭での教材の準備方法 ⑥家庭での学習・読書用スペースの設置方法を学んだ。
- 上記ワークショップに参加した世帯 596 世帯に、家庭での学習・読書用スペース設置に必要な資材（教材の作成に必要な文具、本や教材の収納箱）を供与した。

活動【3】小学校の水衛生設備改善・健全な学習環境整備

【3】1. 対象校における水衛生設備などの環境改善

- DESB 職員と対象 14 校を訪問し、水衛生施設の最新状況の確認および学校関係者、VEDC とともに施工前協議及び施工計画の最終確認を行った。
- 施工開始前に各村に教員・VEDC メンバー等からなる建設管理委員会を設立し、建設計画や建設方法等詳細の協議を行った。委員会メンバー（計 135 名、内女性 18 名）は各施設の建設にあたり、コミュニティ住民の動員及びコミュニティ提供資材の調達、施工が計画通りになされているか日常的なモニタリングを行い、事業スタッフに報告する役割を担った。また、DESB 職員と事業スタッフがほぼ毎日現場を周り建設の質管理を含めモニタリングを行った。
- トイレ 13 棟及び井戸 7 基の建設を行った。当初計画ではトイレ 14 棟の建設を予定していたが、Naxeng 小学校が移転の可能性が濃厚かつ移転先・時期等の見通しが一向に立たないことから、同校におけるトイレ建設は取り止めることとした。また、井戸 7 基のうち 3 基は改修を計画していたが、実際に改修工事を開始したところ、井戸内部の状態や水量の不足等により改修ができない状態であることが確認された。このため、Pheuviengkham 小学校と Hintangkhok 小学校における井戸改修を井戸新設に変更した（以上の変更は事業変更承認申請第 2 号参照）。本活動は新型コロナウイルス感染拡大によるラオ国内の移動制限（2021 年 4 月下旬～12 月頃まで続いた）により大幅な遅れが生じ 2 年次終了時点での建設完了率は約 4 割であった。完成は 3 年次に持ち越し、2022 年 7 月を見込んでいる。
- 対象 14 校に水衛生施設用備品（歯ブラシ・歯磨き粉、石鹸、トイレ清

	掃用具など）を供与し、適切な衛生習慣習得に十分な備品がある状態へと学習環境を整えた。 【3】 2. 対象校での衛生的な習慣の習得 ・ 教員及び VEDC、対象校児童 1,000 名を対象に学校衛生研修を行い、学校での衛生活動を実施した（2 回）。研修では、手洗い場の維持管理方法や、学校を清潔に保つ方法について説明した。衛生活動では適切な手洗いの 5 ステップ、適切な歯磨きの方法を説明後実践し、毎日の学校での衛生活動実施方法や計画詳細について協議した。各校に児童からなる水衛生クラブを設置し、5 つのグループが曜日ごとに学校での毎朝の手洗い・歯磨き衛生活動をリードし、また水衛生施設や学校の清掃を担当するスケジュールを作成した。また、同クラブが教員のサポートを得つつ手洗い場の維持管理も担当することで合意した。 ・ 上記衛生活動のフォローアップを行い、各活動の実践状況の確認と必要なサポート・助言を行った。 ・ 上活動実施にあたり必要となる石鹸、歯ブラシ、歯磨き粉等を教材として対象 14 校児童及び学校に配布した。これらは、教員のサポートを得つつ、上述の水衛生クラブで管理を行っている。 活動【4】：政府関係機関との連携・モニタリング体制強化 【4】 1. PESS/DESB 関係者らによる本事業への理解促進と連携強化 ・ PESS/DESB 関係者との会合を計 3 回実施した。 ・ 郡レベル政府会合の 8 月中旬の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大によるカイソン・ポムビハーン市のロックダウンにより、同市からの参加者（政府関係者・団体職員）の移動が不可となったため、8 月下旬に規模を縮小して一部実施し、これまでの事業実施のレビューを行った（郡政府職員・対象村村長 1 名が参加）。 ・ 2022 年 1 月の郡レベル政府会合では、2021 年の活動の振り返り、リテラシー調査結果詳細の共有と対応策の協議、その他活動成果の達成状況等の確認を行い、2022 年度の活動計画を共有・協議した。 ・ 2022 年 2 月には県レベル政府会合を実施し、上述の郡レベル政府会合での協議内容・行動計画をもとにさらに協議を行った。また、現状 2022 年 9 月末までとなっている事業 MOU 延長手続きについて取り上げ、延長手続きに必要なとなるプロセスの確認を行い、各必要書類の期限等について合意した。 【4】 2. 政府機関関係者と連携した学校およびコミュニティでの活動に対するモニタリング／コーチング体制構築 ・ 2 年次事業開始ミーティングをサバナケットにて実施し、1 年次の活動レビューと 2 年次の計画詳細の共有・再検討を行った（3 月）。 ・ DESB 職員と WV スタッフが各校を 6 回訪問し、授業での教授法、図書の利用状況・学習環境・衛生促進活動の状況などについて、モニタリングを行い、教員・校長との協議、助言を行った（3 月、6 月、7 月、11 月、1 月、2 月に実施）。授業実践において適切な教授スキルや教材が用いられているか、学習の助けとなる掲示物等が教室に整えられているかといった基準にもとづきモニタリングを行った。 ・ DESB 職員と WV スタッフがコミュニティを 6 回訪問し、読書グループ活動開始・実施にかかるサポートと助言を行った（3 月、6 月、7 月、11 月、1 月、2 月）。研修を受けたボランティアがファシリテーターを務めている、ガイダンスで定められたカリキュラムに基づいて活動を行っている、必要な資材を備えている、毎週活動実施を基本とする、コンスタントに参加者がある、などの基準に沿ってモニタリングを行
--	---

<

適宜助言を行っていく。

- 対象校において、リテラシー調査で合格ラインに達した3年生の割合が毎年上昇する
2年次実績 33%
12月 28% 非介入校 6%

	目標	実績	非介入校
ベースライン値	-	15%	
1年次	25%	5%	9%
2年次	1年次から少なくとも10%上昇	33%	20%

本指標では、1年次と比較して28ポイント上昇し、2年次目標を上回った。一方で、児童の学習到達度が高い対象校と、そうでない対象校がデータではっきりと確認された。この結果をレビュー・ワークショップで確認し、各校で学習到達度向上のための行動計画を作成した。3年次には、モニタリング・コーチング訪問の際にこれらの計画に照らし合わせ状況を確認し、各校特有の課題に合わせて適宜フォローアップを行っていく。

- 教授法研修受講者のうち、研修で獲得したスキルを活用してリーディングを教えている教員の割合が増加する（学校モニタリングの際に測定）

	目標	実績
ベースライン値	-	0%
1年次	増加	100%
2年次	1年次よりも増加	92%

本指標は1年次から8%ポイント下がり、目標達成とはならなかった。この要因としてはデータ収集の際に1年次よりもより厳密に基準に沿っているかを判断したことが挙げられる。

一方で児童の学習成果は向上していることから、3年次には教員への個別サポート、研修によるサポートを引き続き行い、一層のスキルの定着と学習成果向上を目指す。

【成果2】子どもたちの学習に対するコミュニティからのサポートが強化される指標

- 読書グループ・ファシリテーター育成研修で75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた住民ボランティア（読書グループ・ファシリテーター）の割合が研修参加者の70%に達する（研修時に測定）

	目標	実績
2年次	70%	92%

- 設定された基準²を満たして活動を行っている読書グループの割合が増加

² 研修を受けたボランティアがファシリテーターを務めている、ガイダンスで定められたカリキュラムに基づいて活動を行っている

する

	目標	実績
2 年次	増加	73%

- ① カリキュラムにもとづき全ての活動を行っている、②基準を満たす質の読み聞かせ活動を行っている、③十分な子どもたちが参加している、④必要な教材を備えている、の項目を測った。うち、④は 100% のグループで備えており、①②は 80%、③が 73%であった。

- 保護者向け読書啓発ワークショップ参加者（30 人予定）のうち、75%以上のセッションに出席しポストテストでプレテストよりも正解数が増えた保護者の割合が上昇する。

	目標	実績
2 年次	上昇	75%

- 直近 1 週間に読書グループ活動に参加した子どもの数が増加する

	目標	実績
2 年次		120%

本指標はどの時点での増加を実績とすべきか判断しかねるため、登録のあった子どもに対して実際に参加した子どもの数の比率を報告する。

- メディアによる取材が少なくとも 1 回行われる。

	目標	実績
2 年次	1 回	1 回

対象校における読書啓発イベント（活動 2. 2. 2）にメディアを招聘し、その様子が SNS テレビと新聞で取り上げられた。

【成果 3】小学校の水衛生設備が改善され、健全な学習環境が整備される指標

- 建設・改修された水衛生施設が教育省の基準を満たしている学校の数
目標値：対象 14 校中 14 校が達成
※トイレ・井戸設置完了は 3 年次に持ち越しとなったため、3 年次に達成度を測る（2022 年 7 月完了予定）。
- 過去 24 時間内に学校で屋外排泄を行っていないと回答した生徒の割合（目標値：調査の対象者数中、2 年次で 60%が行っていないと回答）
目標値：対象 14 校中 14 校が達成
※トイレ・井戸設置完了は 3 年次に持ち越しとなったため、3 年次の施設設置完了後に達成度を測る（2022 年 7 月以降）。
- 少なくとも毎日 1 回、手洗い促進活動を通じて生徒全員が手洗いを行っている学校の数（毎年 2 回モニタリングで確認）
目標値：対象 14 校中 14 校が実施
2 年次実績：14 校中 14 校が実施

	■ 適切な手洗い・歯磨き習慣を身につけている生徒の割合（過去 24 時間の必要な時に手洗い 2 回以上および歯磨き 1 回以上を実施したと回答した生徒の割合を測定） 目標値：調査の対象者数中、手洗い 60%、歯磨き 60% 2 年次実績：手洗い 92%、歯磨き 92% 【成果 4】政府関係機関との連携・モニタリング体制が強化される指標 ■ 助言や提案を伴った対象校および対象村へのモニタリング／コーチングの実施回数 目標値：6 回 2 年次実績：6 回 本事業の活動及び成果を通して、以下の SDGs 目標実現に直接的に貢献した。 ●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性 <u>目標 4</u> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。 4.1 2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。 <u>目標 6</u> すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。 6.2 2030 年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性および女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。
(4) 持続発展性	本事業では、教員・行政・保護者・住民（ボランティア、VEDC）などのステークホルダーと、計画・実施・モニタリング・評価の事業サイクルの各段階において密接に連携・協働し、関係者のエンパワーメントとオーナーシップの強化を図ることで、事業成果の持続発展性を確保する。また既存の行政システム・制度に沿った活動を行い、ラオス教育スポーツ省の県・郡職員がリテラシー向上の指導員となることで、本事業の活動を地方行政に組み入れていくことが可能である。なお同省の 2016-2020 年の中期計画においても、小学校における読解力向上が重視されている。 また対象小学校に建設・改修する水衛生施設は、村に建設委員会を設置し、日常的な施工モニタリングと報告を担う等、オーナーシップを高める工夫を行っている。また、同委員会に維持方法について研修を行った上で、各校が責任を持って予算を確保し管理できるよう体制を整備する。 最終年度にあたる 3 年次には、各活動を通じて持続発展性強化徹底を図り、ステークホルダーとともに事業終了後の活動継続計画の協議・策定を行う。